

## DST series



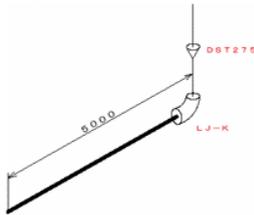
### 定流量排水実験・器具排水実験

排水管の更新工事では、区分所有者が生活しながらの工事となるため、施工時間の短縮は重要な要件となります。そのため、汚水系統と雑排水系統が分流となっている既設の排水立て管を、更新時に1本にまとめ、施工工数の短縮が計られます。

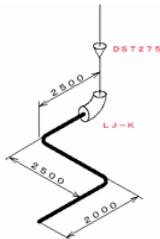
汚水と雑排水が合流する排水立て管では、流れると予想される負荷流量も大きくなり、高い排水性能のシステムが必要となります。

スラブ上面接合を可能とする排水立て管更新用継手**とにかえ～な**の排水性能実験の一部を報告します。

#### ●実験配管



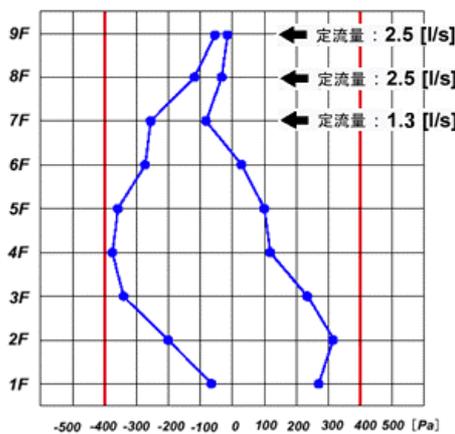
実験系統	<b>とにかえ～な</b> DST275S 100×80/0-6-0-0
脚部継手	LJ-K 100×125
横主管形態	ストレート 5m
排水負荷	定流量 6.3[l/s]
試験方法	SHASE-S 218 「集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法」に準拠



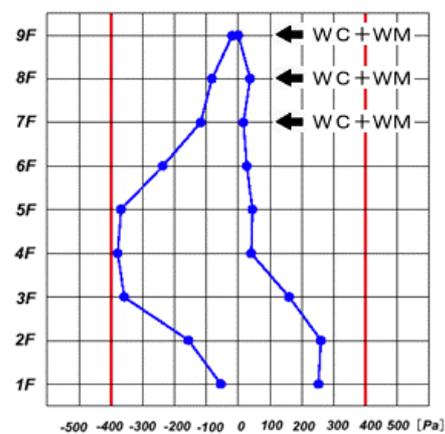
実験系統	<b>とにかえ～な</b> DST275S 100×80/0-6-0-0
脚部継手	LJ-K 100×125
横主管形態	水平2曲がり (2,500mm+2,500mm+2,000mm)
排水負荷	器具排水 WC×3台+WM×3台 (洗剤入り)
試験方法	SHASE-S 218 「集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法」に準拠

#### ●実験結果

定流量排水実験  
6.3[l/s]の圧力分布



器具排水実験 (洗剤入り)  
WC×3台+WM×3台の圧力分布



#### DST 100A

階数[階]	6	7	10	11	15	20	25	30	35	40	45	50
設計用許容流量値 [l/s]	6.3	6.3	6.3	6.3	6.0	5.7	5.5	5.4	5.3	5.2	5.1	5.0

HASS206-2000定常流量法によると、15階建てで、大便器、浴槽、洗濯機、洗面器が合流する排水立て管の負荷流量は、 $QL[l/s]=5.6[l/s]$ となります。「負荷流量:  $QL[l/s]$  許容流量:  $Qp[l/s]$ 」を満足する範囲でご使用下さい。(5.6[l/s] 6.0[l/s])